

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

企画部企画課

企画部長 山田 宰

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
03-002	シティプロモーション 推進事業	あり	C	専用サイトによる情報発信や市民ライターによるまちの魅力発信、鉄道のポスター広告などの取組を実施し、露出を高めた結果、Instagramのフォロワー数増加などにつながった。また、コロナ禍の中、新たに結婚応援給付金を創設し、結婚式等の延期や中止によりキャンセル料等の費用負担が生じた夫婦への給付を行い、市への愛着醸成に努めた。引き続き、マスメディアへの働きかけや推進体制の強化を図っていく。	改善推 進	シティプロモーションは、すぐに成果があらわれるものではなく、継続して実施することで半田市のイメージ向上やまちへの愛着醸成につながるものである。本市のファンを増やし、将来的な定住人口を獲得していくため、新たな半田のお土産品の開発などのインパクトある取組を実施していく。
03-003	まち・ひと・しごと創 生総合戦略評価事 業	なし	B	庁内評価と産官学金労言の各分野の有識者による外部評価を実施するとともに、評価結果を施策の改善につなげることで、総合戦略の適切な進捗管理を図ることができた。外部評価を行う有識者からも概ね適切に制度が構築されているとの声をいただいている。また、新たな課題や社会情勢の変化に対応できるよう施策や具体的な取り組みを見直した第2期の総合戦略の策定を行った。	改善推 進	人口減少への対応や地域経済の活性化に向けて、引き続き、庁内評価と外部評価を実施し、評価結果を施策の改善につなげることで、総合戦略で定めた基本目標の達成を目指す。
03-004	第7次総合計画策 定事業	あり	B	昨年度取りまとめた基本構想素案をもとに、審議会などから意見を取り込み、議会の議決を経て第7次総合計画を策定した。今後の10年間で展望した都市像を「人がまちを育み まちが人を育む『チャレンジあふれる都市・はんだ』」と定め、各施策ごとにチャレンジ2030を設定することができた。	終了	
03-005	第6次総合計画評 価事業	なし	B	次期総合計画の策定を踏まえ全45施策の総括評価を実施し、第6次総合計画のこれまでの成果、今後の課題を確認した。また、評価制度については、市民評価委員会からも概ね適切に制度が構築されているとの声をいただいております。総合計画の適切な進捗管理を図ることができた。課題としては、現行の評価制度を基本とし、次期総合計画に向け、より望ましい評価手法について検討していく必要がある。	終了	
03-006	ふるさと新発見事業	なし	C	5年サイクルでの取組みの3年目として、これまでに製作した「ならわまち歩きマップ」や「てらまちガイドブック」を活用しスタンプラリーやまち歩きイベントの実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を断念した。令和3年度以降も感染症の影響が続くことが見込まれるため、新しい生活様式に対応した事業案を検討し、地区内の寺院の住職を集め意見交換会を実施した。意見交換会では事業案に対する賛同の声がある一方で、地区全体に効果が波及するよう要望があったため、令和3年度以降の事業実施方針について検討をしていく。また、継続的に事業を推進するために必要となる核となる団体・人物については、引き続き模索していく必要がある。	改善推 進	長年成岩に住んでいる方はもちろん、地域に関心の低い方にも成岩に興味を持ってもらえるよう、マップ等を配布するだけでなく、Twitterを活用してコロナ禍でも参加できるイベントを行ったり、市民自身がPR動画を制作しユーチューブに投稿して情報発信を行う等、市民が直接成岩の魅力に触れることで、地域への愛着の醸成を図っていく。

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
03-008	広報推進事業	なし	C	コロナ禍により新聞に掲載されるイベント等が中止になり、新聞掲載数は減少した。ホームページのアクセス数は、スマートフォンで使いやすくリニューアルしたことや市報などからホームページへの誘導を促進したことにより増加した。また、新型コロナウイルス感染症に関する情報を発信したことも増加の要因となった。市報の満足度については、カラーページを18ページにしたことや、表紙についても目的を持ったデザインしたことなど、分かりやすい紙面作成に努めた結果、満足値は目標値を達成できた。	改善推進	ホームページは引き続き、市報やLINEなどのSNSからの誘導を促進するとともに、内容の充実を図る。市報は、カラーページを増やし、読者に興味を持ってもらえる特集記事を企画していく、さらに見やすく親しみのある市報を目指す。報道機関への情報提供については、各課の提供すべき情報が素早く・確実に市民等に届くよう常にアンテナを高くする。また、伝えたい内容を簡潔・簡明にし、記者に理解してもらうための工夫を凝らすなど、一目でわかる情報提供資料を作成していく。
03-011	ICTを活用したまちづくり推進事業	あり	B	都市計画図の更新作業に加え、令和2年度も継続して、名古屋大学遠藤准教授の支援を受けて、オープンデータの拡充推進に努め、順次公開データ数を伸ばした。給食のデータを活用したLINEアプリを更に活用してもらうためにLINEの登録者数を増やす取り組みも行った。	拡充推進	引き続き、名古屋大学の支援をうけながら、オープンデータを拡充し、最新の航空写真データや地図情報の公開を行い、時代に即した新たなIoTサービスを稼働させ、市民サービスの向上を目指す。
03-012	第3次情報システム最適化事業	あり	B	令和2年度は、第3次情報システム最適化事業で導入したシステムが運用フェーズに移行し、大きなトラブルもなく安定稼働させることができた。引き続きシステムを停止させることなく、委託事業者と密に連携を図っていく。	改善推進	システムの安定稼働を継続し、法制度改正の対応などを行い、業務の効率化、改善を図るとともに、令和3年度から第4次情報システム最適化事業の仕様検討を行う。
03-013	統計調査事務	なし	C	令和2年度は、最も重要な統計調査である国勢調査が実施され、調査票の回収率は目標を上回ることができた。また、研修会については開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により書面開催となったが、参加率は目標を大きく上回ることができた。統計調査員の要員不足、高齢化は依然として課題である。	改善推進	令和3年度は、経済の国勢調査と呼ばれる経済センサスを実施する年であり、質の高い調査員を確保し、定められた手順に従い着実に調査を実施する。
課等長	1次評価(令和2年度の総括評価)					
B	全体としては、目的の達成に向けた取組について、改善を図りながら着実に進めることができた。シティプロモーション事業については、Instagramのフォロワー数増加や結婚応援給付金の創設など、コロナ禍であっても露出を高めることができた。引き続き、定住人口や交流人口の増加に向け、市のPRや愛着醸成に繋がる事業に取り組む必要がある。第7次総合計画策定事業については、将来の都市像を「人がまちを育み まちが人を育む チャレンジあふれる都市・はんだ」と定め、10年間のビジョンとともにチャレンジ2030やSDGsの推進などを盛り込み策定することができた。今後は計画の実現に向け、各施策を評価し、適正な進行管理を行う。 広報推進事業については、コロナ禍でイベントが中止になるなど新聞掲載数が減少する中、ホームページのアクセス数や市報の満足度では目標を達成することができた。今後も市民が知りたい情報を素早く提供できるよう、SNSやQRコードの活用といった時代に即した広報活動を推進していく。					
部等長	2次評価(令和2年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
B	事業全体としては、改善を図りながら、概ね事業推進ができていますと評価する。 総合計画について、第6次総合計画では「市民協働」を意識して取り組んだことで市民評価において14分野のうち10分野がA評価、残り4分野がB評価をいただくことができ、市民目線でのまちづくりができたと考えている。第7次総合計画でも、第6次の評価を踏まえつつ、withコロナを始めた社会情勢の変化を捉えながら、新たな都市像でもある「人がまちを育み まちが人を育む チャレンジあふれる都市・はんだ」の実現に向け、将来を見据えた事業展開を図っていく。 ICTを活用したまちづくり推進事業及び広報推進事業については、コロナ禍で行政のデジタル化の必要性が高まっている。市民が気軽に情報を入手し、行政にアクセスできるようICTを活用して取り組む必要がある。					